当面の課題

- AR6統合報告書は地球温暖化の進展、緩和・適応両面の対策強化の必要性、削減ポテンシャルのアヴェイラビリティについて明確なメッセージを発出。
- 同様のメッセージは2018年の1.5℃特別報告書でも出されており、同報告書では緩和対策は他のSDGとの関係でトレードオフを上回るシナジー効果を有することを示唆。
- しかし1.5℃特別報告書以降もコロナ禍の2020年を除き、世界のGHG排出は増大を続けている。2023年も過去最高を更新する見込み。

当面の課題

- 気候変動対策が他のSDGとの関係でトレードオフを上回るシナジーを有し、リーズナブルなコストでの削減ポテンシャルが潤沢に存在するならば、なぜ世界の排出量は増大を続けるのか？ ➔ IPCC報告書の議論とエネルギー/気候変動をめぐる現実のギャップの拡大

- 統合報告書のキーメッセージの一つは「この10年間の大幅で急速かつ持続的な緩和と適応行動の加速的実施」の必要性と「緩和・適応分野での資金を何倍にも拡大すること」の必要性。これは今年のグローバルストックテークにも反映される見込み。G7広島サミットでも同様のメッセージを発出（見込み）

当面の課題

- 一方で・・・

- グローバルな気候協力の必須条件である協力的な国際秩序はウクライナ戦争による「新冷戦」あるいは「分断された世界」によって危機に瀕している。
- グローバルノースとグローバルサウスの対立が深まっている。
- 野心と資金の理想と現実のギャップは拡大している
  - 2030年＋14%の見込み vs▲45%削減目標
  - 1000億ドル目標(未達成） vs 1兆ドル要求
- 新興国・途上国に対してより野心的な姿勢を持たせるためのレバレッジはあるのか（炭素国境措置？）

AR7への期待

- AR7に何を期待するか？
  - 地球温暖化に関する最新の科学的知見のとりまとめと各国の政府、企業、国民に対するインプットという基本的ミッションは不変
  - 2028年の第2回グローバルストックテーク、2030年のNDC改訂とのリンケージは可能なのか？
  - 世界の排出経路が1.5℃～2℃目標のために必要な経路から大きく乖離した場合の「プランＢ」を提示できるか？